

2022年8月期第2四半期 (2021年9月～2022年2月)

決算説明会

株式会社アドテックプラズマテクノロジー
スタンダード
証券コード：6668



新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、感染拡大防止にご尽力されているすべての皆様に敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

当社グループは、感染拡大防止及び安全の確保を最優先として、感染防止策を徹底の上、業務を遂行してまいります。

会社概要

会社	株式会社アドテック プラズマ テクノロジー
設立年月日	1985年1月
所在地	広島県福山市引野町五丁目 6 番10号
決算期	8月
資本金	835百万円 (2022年2月末)
代表者	代表取締役社長 森下 秀法
従業員数	連結 : 493名 (2022年2月末) 単体 : 167名
セグメント	半導体・液晶関連事業 研究機関・大学関連事業
連結子会社	Adtec Technology, Inc. (米国) Adtec Europe Limited (英国) 株式会社IDX (栃木) Phuc Son Technology Co.,Ltd. (ベトナム) Hana Technology Co., Ltd. (韓国) AD Technology Ltd. (台湾) Suzhou Cuizhuo Dianzi Limited (中国)

半導体・液晶関連

半導体製造装置内でプラズマを発生させる高周波電源を主力製品とした関連製品の設計、製造、販売、サービスの提供

ユーザー

- 半導体製造装置メーカー
- 光学機器メーカー etc.

主力製品

- 高周波電源 (RFG)
- マッチングユニット (MU)
- 計測機器

会社名

株式会社アドテックプラズマテクノロジー
Adtec Technology, Inc.
Adtec Europe Limited
Phuc Son Technology Co.,Ltd.
Hana Technology Co., Ltd.
AD Technology Ltd.
Suzhou Cuizhuo Dianzi Limited

研究機関・大学関連

医療現場、国の研究機関等において使用される、治療装置や実験施設等の電源装置の設計、製造、販売
半導体・光学分野向け製品の開発

ユーザー

- 国の研究機関
- 大学
- 一般産業 etc.

主力製品

- 粒子加速器電磁石励磁用電源
- 直流電源
- マイクロ波応用機器
- 高電圧電源

会社名

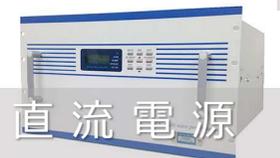
株式会社IDX



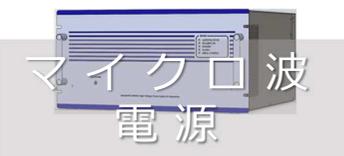
高周波電源



マッチング
ユニット



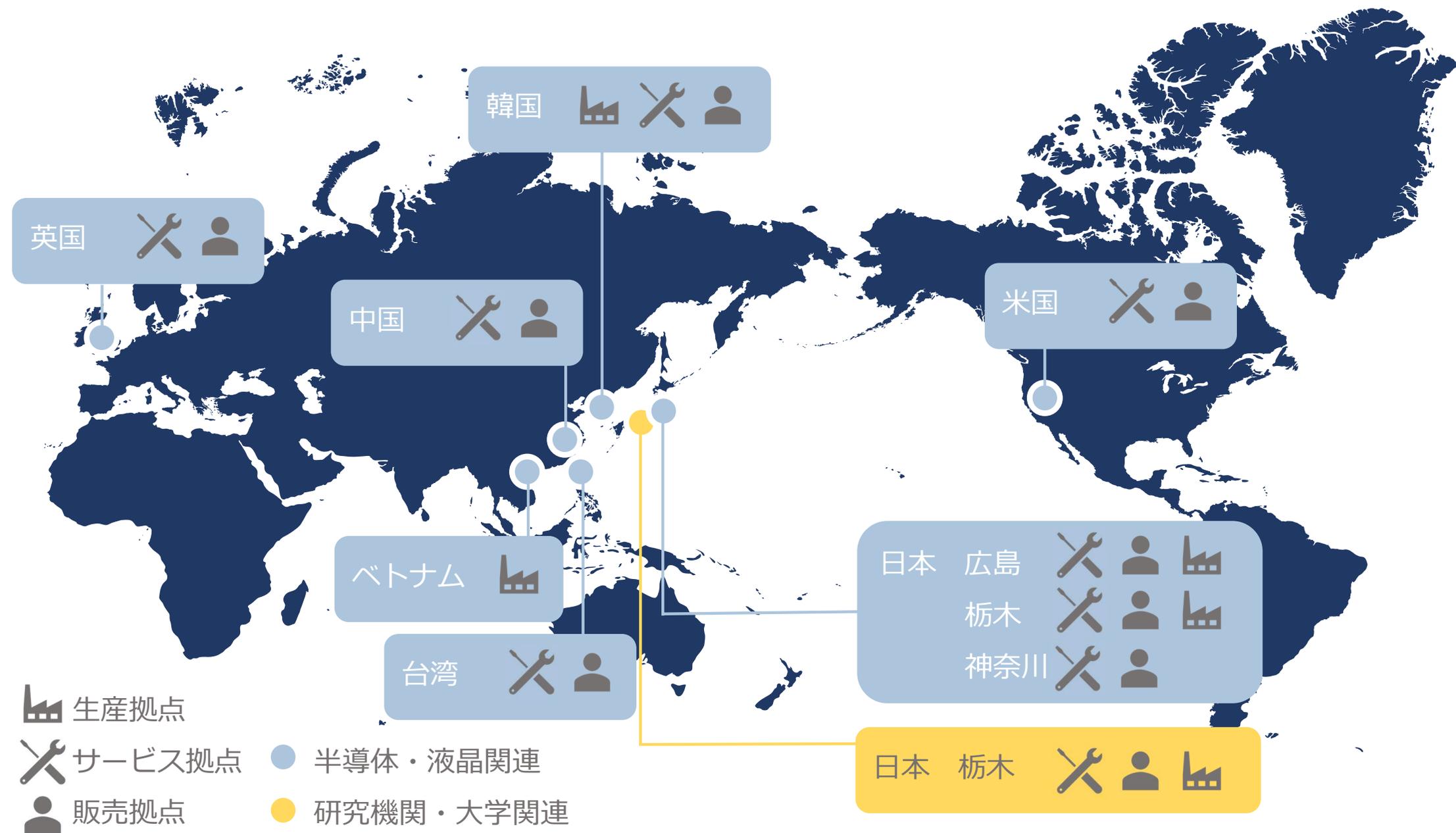
直流電源



マイクロ波
電源



加速器電源



2022年8月期 第2四半期連結業績

連結業績概要

(単位：百万円)	21/8期 2Q累計実績	22/8期 2Q累計実績	前年同期比 (増減率)	予想比	
				22/8期 2Q累計予想	増減 (増減率)
売上高	3,623	5,809	2,186 (60.4%)	5,200	609 (11.7%)
売上総利益	1,419	2,508	1,088 (76.7%)	-	-
営業利益	444	1,236	792 (178.4%)	900	336 (37.4%)
経常利益	481	1,298	817 (169.9%)	900	398 (44.3%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	355	945	589 (165.8%)	600	345 (57.6%)

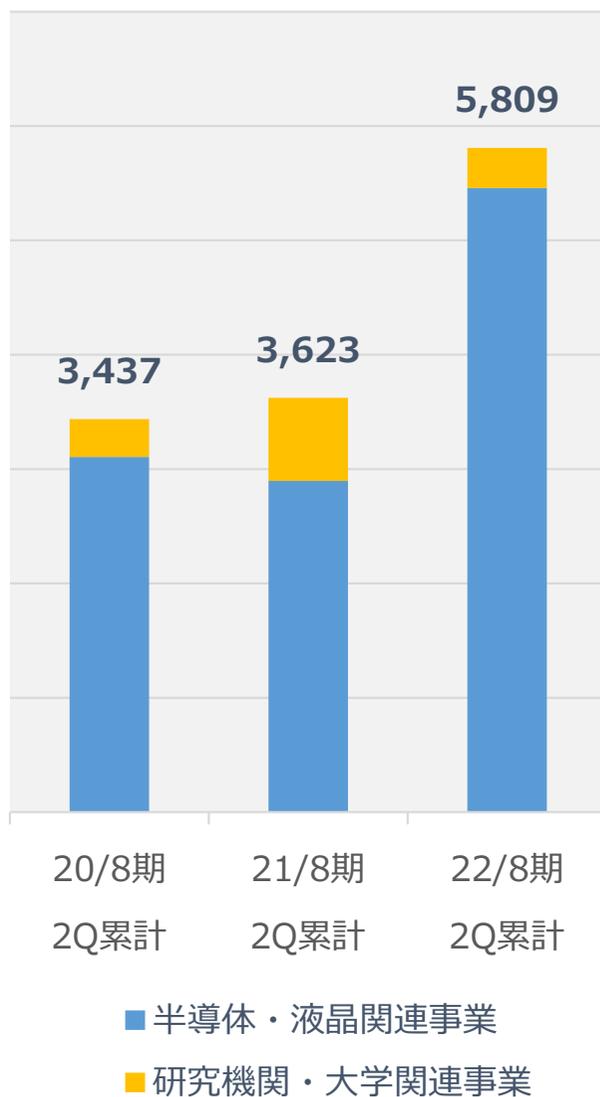
※当四半期より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）を適用

連結売上高・営業利益の推移



セグメント別売上高推移

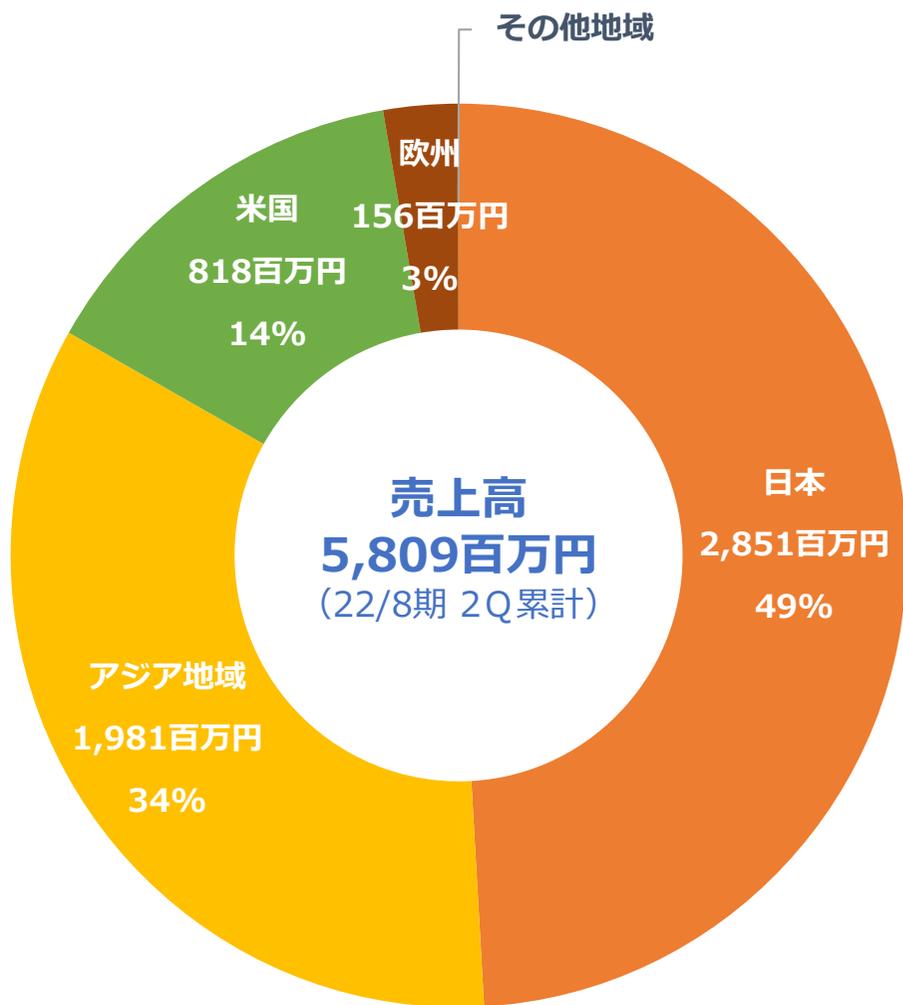
(単位：百万円)



(単位：百万円)		21/8期 2Q累計	22/8期 2Q累計	前年同期比 (増減率)
半導体・液晶 関連事業	売上高	2,898	5,458	2,559 (88.3%)
	営業利益	360	1,208	847 (235.0%)
研究機関・大 学関連事業	売上高	724	351	▲373 (▲51.5%)
	営業利益	69	▲16	▲86 (-)
連結 損益計算書 計上額	売上高	3,623	5,809	2,186 (60.4%)
	営業利益	444	1,236	792 (178.4%)

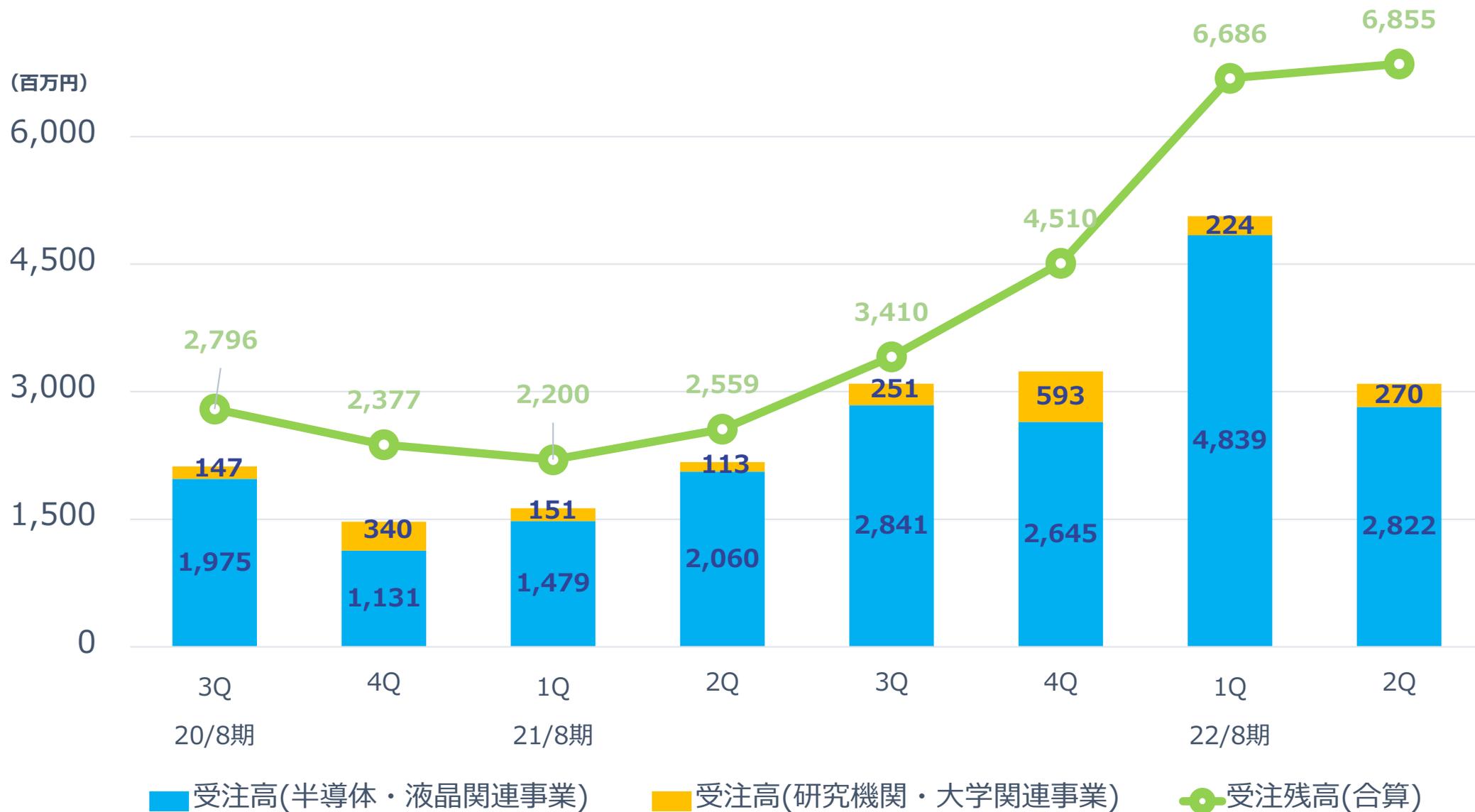
※各セグメントの営業利益は、セグメント間取引を含む

地域別売上高



(単位：百万円)	22/8期 2Q累計	セグメント別内訳	
		半導体・液晶 関連事業	研究機関・大 学関連事業
日本	2,851	2,500	351
アジア地域	1,981	1,981	-
米国	818	818	-
欧州	156	156	-
その他地域	1	1	-
合計	5,809	5,458	351

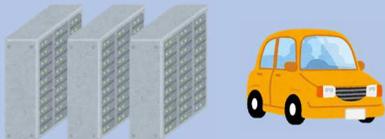
セグメント別受注高・受注残高推移



連結キャッシュ・フロー

(単位：百万円)	21/8期 2Q累計	22/8期 2Q累計	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	617	▲438	▲1,055
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲140	▲363	▲222
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲88	1,335	1,424
現金及び現金同等物に係る換算差額	29	91	61
現金及び現金同等物の増減（▲）額	417	624	206
現金及び現金同等物の期首残高	2,830	2,679	▲151
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,248	3,304	55

2022年8月期 通期連結業績予想

業界		2022年 (1月～6月)	2022年 (7月～12月)	2023年 (1月～6月)	内容
半導体	メモリ 				DX化による5G、IoT、AI等の情報通信技術の拡大に伴い、スマホ、PC、タブレット、データセンター向け需要が引き続き好調。各デバイスメーカーの設備投資が大幅に増えている。
	ロジック 				AI、車載、データセンター等の幅広い用途に必要であり、に台湾、韓国、中国、アメリカ市場において、2022年は2021年を大幅に上回る設備投資が行われており、2023年においても2022年を上回る設備投資が行われると予測する。
	イメージセンサ 				5G、IoT、AI等の情報通信技術の拡大に伴い、スマホ、車載向け需要が増加し、設備投資が増える見通し。
	車載半導体 				世界の自動車メーカーによる電気自動車の普及拡大や自動運転技術の実用化に向けたパワー半導体使用数の増加が続く。
光学系	スパッタ・蒸着 (有機EL・FPD含む)				5Gインフラ整備、顔認証、5G対応スマホ拡充により、2022年後半からエンドユーザーによる設備投資が増える見通し。

通期連結業績予想

(単位：百万円)	21/8期 実績	22/8期 予想	増減 (増減率)	備考
売上高	8,003	11,700	3,696 (46.2%)	【半導体・液晶関連】 ○ 米中貿易摩擦、ロシア・ウクライナ問題等、外部環境に変化がある中でも、上半期は特に半導体液晶関連が受注増となり、今後は光学関連も動くことにより受注額はさらに上がると考えられる。 △ 世界各地からのリピート製品等の受注増加や設計案件の急激な増加に対応するための人件費、試験研究費の増加を見込む。 △ 国内外における技術サービス、生産等トータル体制の強化による経費の増加。
営業利益	1,102	2,300	1,197 (108.6%)	【研究機関・大学関連】 続官新民 ・ 市場規模が大きい直流電源市場における受注獲得の強化。 ・ 直流電源（バイポーラ含む）のラインナップの充実。 ・ ベトナム子会社への生産移管を進める。
経常利益	1,160	2,400	1,239 (106.8%)	《今後の取り組み》 ・ 海外生産の拡大⇒ 生産キャパ2倍、コスト削減、納期短縮 ・ 設計キャパの拡大⇒ 社員教育の強化、AI活用によるシミュレーションや自動化を加速。国内外から人員の増員を図り、設計キャパ2倍を目指す。製品ラインナップの充実化を図り新規市場を含めた顧客の獲得。 ・ 中国、台湾、韓国の現地装置メーカーへの営業、技術提案を強化し、現状のシェア2倍、売上2倍を目指す。 ・ 生産性の向上⇒ グループ製造拠点における調整・測定業務の自動化を促進。 ・ 資材部門の効率化⇒ 佐野事業所における部材の一元管理及び、自動倉庫稼働における効率化の促進。
親会社株主に 帰属する 当期純利益	875	1,700	824 (94.2%)	
1株当たり配当金 (年間) (円)	12	12	-	

連結売上高・営業利益の推移（通期）



トピックス

● 稼働状況

- グループ各拠点にて、リモートワーク、その他感染防止策を講じて、業務を継続。
- 主要生産拠点であるベトナム、韓国の工場においては通常稼働。

● 対策

- 主要生産拠点であるベトナム、韓国以外に、佐野事業所に国内生産ラインを整備し増強することで生産拠点を分散。生産停止のリスクを低減。
- 感染者が確認されたことを受け、速やかに当該事業所の消毒作業を実施。濃厚接触者とみられる従業員等にはPCR検査の実施及びリモートワークでの業務を徹底。

【感染拡大防止 社内の取組】

- 非接触式体温検知器による体温測定の実施
- リモートワーク、時差出勤の導入
- 国内外の移動制限
- マスク着用、手指消毒の徹底
- アルコール消毒、換気
- 個人デスクへのパーティションの設置



- アドテックグループとして、6か国7つの展示会へ出展。グループ内で連携し、市場のマーケティング、当社ブランドをアピール。
- 台湾販売代理店が主導する形成外科学会にて、イギリス子会社の創傷治療装置を紹介。



展示会の様子・グループ製品の出展



展示会開催地

- ◆ アジア：中国・台湾・韓国・日本
- ◆ 欧州：ドイツ（ミュンヘン）
- ◆ 米国：米国（サンフランシスコ）

出展状況

新型コロナウイルス感染症対策によるオンラインでの参加も増え、多くの参加者が来場。半導体は、5G、IoT、AI、AR（拡張現実）、VR（仮想現実）、EV（電気自動車）等々、あらゆる分野で需要が増加しており、新規顧客の獲得につながる反応も多く見られた。



オンライン対応



SteriPlasの紹介
台湾形成外科学会

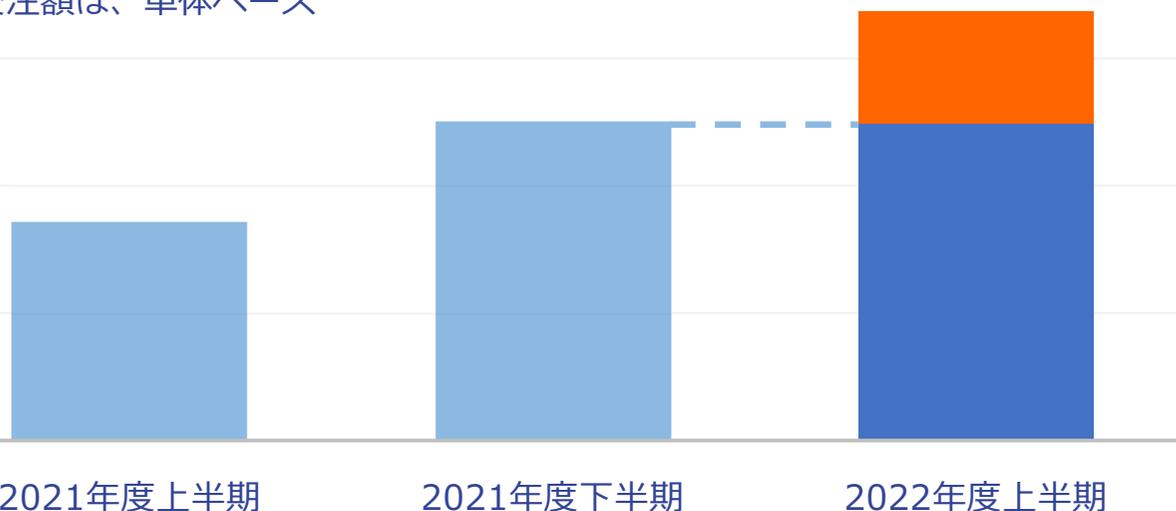
創傷治療装置「SteriPlas」

- ◆ 台湾形成外科学会で紹介された(21'12月)
- ◆ イギリスの科学雑誌に掲載(21'12月)

アドテック及びIDXから
リモートによる対応

受注高の半期推移

- 2020年9月から2022年2月までの受注額(半期ベース)の推移
- 受注額は、単体ベース

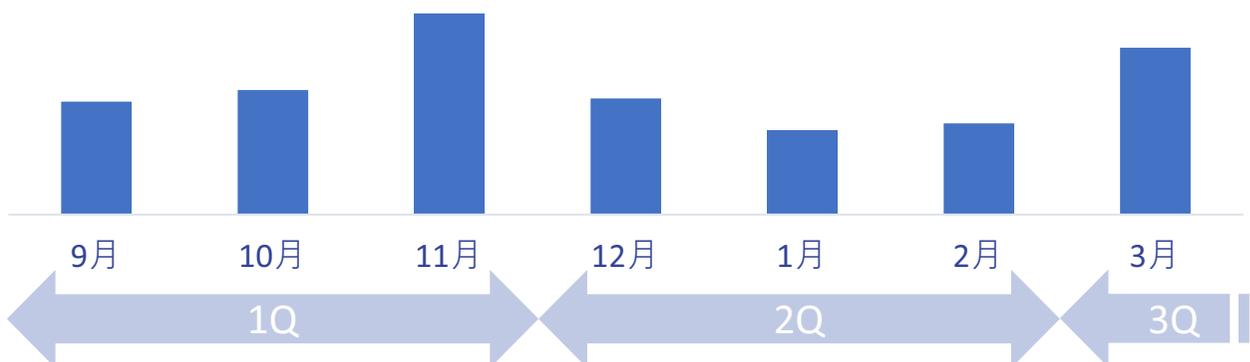


前年度下半
期との比較

3割増

受注高の月別推移

- 2021年9月から2022年3月までの受注額の月別推移



2Q受注動向

当年度11月に先行受注が集中したことにより、2Qの受注水準は低調しつつも、想定より高い水準を維持。

今後の動向

中国の半導体内製化へ向けた投資が行われるなど、半導体関連の投資は引き続き継続すると推測され、半導体関連製品の受注の拡大基調は続くと予想。

半導体事業 地域別売上高推移

中国、台湾、韓国の世界半導体生産能力は過去2年から大きく成長。当地域への市場導入により売上高は好調に推移。

- 地域は、中国・台湾・韓国
- 売上高は、単体ベース

(百万円)

1,000

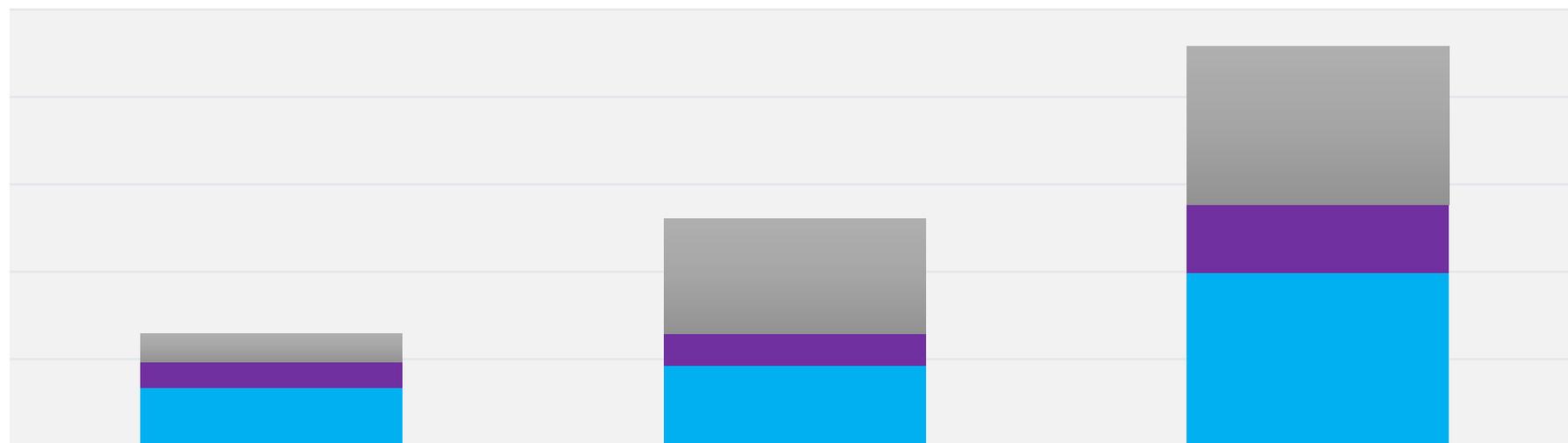
800

600

400

200

0



20/8期
2Q累計

21/8期
2Q累計

22/8期
2Q累計

■ 中国

134

186

398

■ 台湾

59

73

155

■ 韓国

65

262

363

生産ライン増設

ベトナム+2

韓国+3

人員増員

ベトナム+66名

韓国+4名

佐野+37名

佐野パーツセンター新設

ベトナム第2工場新設

上半期 生産台数の推移



生産能力状況

ベトナム、韓国および佐野事業所において、順次、製造設備の増設や人員の増加等の生産体制を強化。グループの生産実績は2月末現在、ベトナム670台、韓国230台、佐野他300台。

部材調達環境の変化

半導体部品の需給ひっ迫により、部材の調達が困難。生産台数の実績が伸び悩む要因の一つとなっている。部材の長納期化に対して先行調達を実施しリスクを低減。
不足部品：スイッチング電源、IC、抵抗、 etc.

■ 2022年8月期 上半期の取組

■ 今後の取組

- ベトナム 人員を順次増員。2022年2月より生産ラインを増設。
- 韓国 人員を順次増員。生産ラインを増設。2021年12月より安定稼働。
- 佐野事業所 国内生産拠点として、人員を順次増員。

ベトナム MU調整ライン数を増設 人員の増員



- 生産可能台数：870台/月
- 生産ライン数：40
- 人員：226名

韓国 MUライン数を増設 人員の増員



- 生産可能台数：300台/月
- 生産ライン数：6
- 人員：41名

佐野事業所 人員の増員



- 生産可能台数：460台/月
- 人員：111名

- 生産増強を支える部材拠点をも、国内生産拠点である佐野事業所に建設予定。
- 効率的な部材管理、各生産拠点への適時適切な部材供給を実現。

今後の展開

佐野事業所の敷地内に2階建て建屋を建設後、部材の在庫保管場所を確保。自動倉庫を導入し、半導体関連製品の生産効率を図る。

状況を確認しながら順次稼働する予定。

建設地

佐野事業所敷地内

建設着工

2022年2月

※2022年7月順次稼働予定

延床面積

2,327.7m² (2階建て)

自動倉庫

シャトル倉庫 12台

パレット倉庫

部材自動仕分システム

設備投資予定額

600百万円



佐野パーツセンター完成予想イメージ

- 拡大する半導体市場を見据えて、当社グループの主要生産拠点であるベトナム子会社に第2工場を建設予定。
- 最大限までラインを増強した場合には、ベトナム子会社の生産量が現在の約3倍となる見通し。

ベトナム子会社の主な事業内容

高周波電源、マッチングユニット及びケーブルの製造及び販売



第2工場建設後 全体完成予想イメージ

建設地

ベトナム本社・工場敷地内

建設着工

2022年9月

※2023年7月完了予定

延床面積

第2工場棟 15,950m² (3階建て)

駐車場棟 6,675m²

設備投資予定額 (建物・設備)

約20,000千円ドル (日本円 2,447百万円)

※日本円は2022年3月末時点の社内為替レートにて換算

製品ラインナップ充実の取組

💡 既存シリーズの製品開発

	シリーズ	スペック			シリーズ	スペック	
RFG	TXL	400kHz 1500W	開発中	MU	AMVS	13.56MHz 1000W	New
	TXM	2MHz 800W	開発中			60MHz 3000W	開発中
		2MHz 2400W	開発中			12.5MHz 1000W	New
	TXH	60MHz 3000W	評価中			27.12MHz 10000W	New
直流電源	バイポーラ電源	20kW 50A	開発中				

💡 新シリーズ・省エネルギー対策の製品開発

RFG	新シリーズ：高耐久電源	CPUのVer.up 高速制御の実現 制御機能を高精度化し、耐久性を向上
	省エネルギー：高効率電源	高効率により使用電力・水を抑えることが可能 AC-RF変換効率向上 半導体製造装置の消費電力低減を実現



■ RFG=高周波電源 ■ MU = マッチングユニット

ご清聴ありがとうございました。

■ 将来見通しに係る記述についての注意事項

本資料に記載した業績予想等の将来に関する記述は、現時点で得られた情報に基づいて当社が判断したものであり、様々な不確定要因を含んでおります。

従いまして、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。